

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 5 月 22 日

【評価実施概要】

事業所番号	4071501664		
法人名	財団法人 大牟田医療協会		
事業所名	グループホーム ファミーク		
所在地	福岡県大牟田市野添町20-19 〒836-0095 (電話) 0944-41-1171		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成20年5月19日	評定確定日	平成20年6月16日

【情報提供票より】(平成 20 年 4 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16 年 9 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人 常勤	15 人 非常勤	2 人 常勤換算 7.25 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての～ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	実費	円
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有(円)	有の場合償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり		1,200 円程度	

(4) 利用者の概要(3月 1日現在)

登録人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護 1	0 名	要介護 2	6 名		
要介護 3	5 名	要介護 4	5 名		
要介護 5	2 名				
要支援 1	0 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	79 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・南大牟田クリニック ・かばしま歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体の病院は高齢者の多い地域にあり、以前より地域医療と在宅介護事業を運営してきた法人である。居宅介護支援、通所介護、訪問介護等を通じて地域高齢者が認知症であっても地域で暮らすことを可能にする為の選択肢の一つを確保したいとの思いをもって、平成16年9月に開設されたホームである。母体の病院は地域の健康教室への講師派遣や地域交流施設の開設予定等、法人全体で地域高齢者の在宅生活を支援している。また、ホーム運営推進会議には校区から10数名の民生委員の出席があり、公民館活動や育成会活動、地域の非常災害時の防災対策、交通安全など包括的な地域の議題が検討されている。今後とも地域、医療、福祉の連携が大いに期待できる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価結果について家族会及び運営推進会議時に報告を行い、職員へは勉強会時に内容を周知し、改善についての協議を行うなど、質の向上への取組みがある。この過程で外部研修への参加取組みや、利用者家族への権利擁護に関する制度の説明、洗濯室等の整備などの成果が見られる。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は各ユニットの管理者が、ホームの現況や職員の意見をまとめ実施した。職員には外部評価の意義や目的を周知し、「特別に構えたり、取り繕ったりするのではなく、普段通りの様子を見ていただく」ということで外部評価に臨んだ。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6) 地域の民生委員、利用者の家族、地域包括支援センターや長寿社会推進センター、南大牟田医療協会、消防署の職員等の参加により2ヶ月毎に行われている。運営推進会議時では、ホームの概要や外部評価の結果報告と改善案の提示、公民館や育成会の行事など様々な地域活動の報告、地域全体の非常災害時の対応策や交通安全についての話し合いが行われるなど、地域との連携を活かしての質の向上への取組みがある。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 契約時に苦情窓口や苦情対応体制について説明を行っている。実際の相談や苦情は面会時に直接話されることがほとんどであるが、毎年1回の家族会の開催時にも、苦情や意見を求めている。出された意見や苦情は内容に応じて、その場での回答や職員会議で検討した後、回答するなどの取組みがある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームの広報紙を地域回覧版で回してもらったり、中学生の職場体験や施設見学を受け入れるなどの取組みがある。また、法人内で夏祭りを開催し地域住民を招待したり、地域交流施設を開設する予定もあり、法人全体で地域とのかかわりを意識的にとらえた取組みがある。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	法人全体の理念として、地域との連携をあげ地域 福祉への貢献の思いをもって開設されたホームである。 ホームでは「のんびり、ゆったり、皆で一緒に一 日、一日」を理念とし、利用者が一日でも長く地域で 暮らせる支援に取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や和室への掲示、毎月の法人全体集会での訓 示等を行なっている。毎日の業務を通じて、利用者本 位のゆったり、ゆったりとした生活を支援する等、理念 の実践にむけての取組みがある。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流すること に努めている	ホーム広報紙を地域の回覧版で回してもらったり、 中学生の職場体験や施設見学を受け入れるなどの 取組みがある。また、夏祭りを開催し地域住民を招待 したり、地域交流施設の開設予定もあり、法人全体で 地域とのかかわりを意識的にとらえた取組みがある。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の評価結果について家族会及び運営推進会 議時に報告を行い、職員へは勉強会時に内容を周知 し、改善についての協議を行うなど、質の向上への取 組みがある。今回の自己評価は、各ユニットの管理 者がホームの現況や職員の意見をまとめる形での実 施となった。		今回で3回目の外部評価となりました。次回は職員 全員で自己評価を行ない、事業所の全貌や状況を 把握する機会としての活用を期待します。また、今回 の外部評価の結果報告をもとに、職員一人ひとりの 考察やアイデアをもって更なる改善への取組みを期 待します。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービ スの実際、評価への取り組み状況等につ いて報告や話し合いを行い、そこでの意 見をサービス向上に活かしている	利用者の家族、地域活動関係者、行政職員、消防 署職員等を招いて2ヶ月毎に開催している。会議では ホームの概要や外部評価報告と改善案の提示、公民 館や育成会の行事などの様々な地域活動の報告、 地域全体の非常災害時の対応策や地域高齢者にま つわる情報交換等が行われるなど、地域との連携を 活かしての質の向上への取組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター職員の運営推進会議への参加や会議議事録の提出、市主催の介護保険事業者連絡会への会場提供、日常的な支援についての相談などを通じて、情報交換を行うなど、サービスの質の向上に向けた取り組みがある。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	前回の評価を受けて職員研修を実施し、権利擁護や成年後見制度について学ぶ機会を持った。また、家族会時に制度利用に関する説明や資料の配布を行うなど、必要な際の活用に向けての支援がある。		
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族訪問時や電話で利用者の心身状況等の説明を行なっている。また、定期的に「ファミリー通信」を送付し、日常の状況や外出、行事参加の様子などを写真付きで報告している。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情窓口や苦情対応体制について説明を行っており、実際の相談や苦情は面会時に直接話されることがほとんどであるが、毎年1回、家族会を開催し、会議の中でも意見や苦情を求めている。意見や苦情への対応は、内容に応じてその場での回答や、職員会議で検討した後に回答するなどの取り組みがある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内やユニット間でも原則的に職員の異動はなく、職員が働きやすい環境を整えて離職を抑えるように工夫し、利用者との馴染みの関係が継続できる様な体制をとっている。新しい職員の採用時には、馴染みの職員が主にかかわるようにし、利用者への影響がないように配慮している。		
5 人材の育成と支援					
11 追加	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用においては、年齢や性別、経験の有無等の制限は設けていない。職員が各々の長所や特技を活かして、利用者との生活を楽しめる場面が多く持てるように工夫している。また、資格取得を目指す職員に対しては、休みの調整を行うなどの配慮がある。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修や実務者研修などの各種研修を通じての取り組みがある。また、事業所内では、職員会議やミーティング等で、高齢者にまつわる人権学習等を中心に行なっている。社会的な差別問題や人権意識を喚起するような取り組みについてはこれからの課題である。		広義においての人権問題は社会的に問われています。高齢者や福祉にまつわる問題に加えて、さまざまな「人権」に対する認識と理解を深めるため、行政や各協議会等の研修への参加や講師の招聘等、法人全体での啓発活動への取り組みを期待します。
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	前回の評価を受けて、計画を立て、事業所や法人内での研修参加の機会を確保する取り組みがある。外部研修に関しては職員の能力や経験等を加味して、管理者から研修への参加を薦めたり、各種研修案内を周知した後、希望を募る等の方法で、均等な参加の機会を確保できる様に支援している。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政主催の地域事業者ネットワークへの参加や各種研修を通じて、他の事業所との情報交換や質の向上への取り組みがある。現在は管理者同志の交流が主であり、職員間の交流は今後の課題である。		各事業所の現場職員が、体験談や経験を通じて得た実感等が交わされる機会があれば情報交換やモチベーションをあげるための大きなヒントになると思います。職員同士の交流の機会を確保し、新たな発見や気づきをもってサービスの質の向上へ取り組まれることを期待します。


外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム見学や体験利用などを実施し、できる限り事前の来所を勧め、他の利用者との挨拶などの機会を設け、徐々に馴染めるように配慮している。入居後は、職員とのかかわりを多く持ち、精神的な安定が得られる様に取組み、他の利用者との関係も、それぞれの個性を尊重し、ゆっくりと自然に馴染んでいけるように見守りながらの支援を行なっている		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理や昔の風習等、利用者から学ぼうとする取組みがある。また、利用者が職員へねぎらいの言葉かけるなど、互いを尊重し支えあいながら、日々を共にすごしている人間関係が伺えた。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の本人・家族との面談や自宅訪問による情報収集に加えて、日々のかかわりを通じて利用者の思いや希望の把握と、情報の共有に努めている。また、利用者から出された希望や思いは、ケアプランへ反映されている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員が汲み取った本人の希望や家族の意向等を、介護計画作成担当者がまとめ介護計画を作成している。介護計画の内容は目標に加えて、具体的な対応や、詳細な支援の手順について明記され、利用者・家族・職員が情報を共有する取組みがある。		現在、管理者(計画作成担当者)が主となってケアプランを立てています。貴事業所には幅広い年齢や経歴の職員が在籍され、それぞれ経験に応じての気づきやアイデアにも幅広い可能性が期待できます。これらが活かされる介護計画の作成経緯や、チームケアの再考が、より良いケアプラン作成の要となる事を期待します。
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、利用者毎の心身状況等の周知や確認の会議を実施している。定期的な見直しとして3ヵ月毎のモニタリング・評価を行い、必要に応じて、介護計画の見直し作成を行なっている。状態が変化した場合も同様の過程を経て、現状に即した介護計画を作成している。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている	医療連携体制を活かした支援 に加えて、かかりつけ医への 受診やリハビリ通院、入院に かかわる支援(送迎・洗濯・食 事の介助等)など利用者、家 族の要望に応じ、出来る限り 柔軟に対応している。また、 随時、地域住民の見学の受入 れや、高齢者にまつわる相談 も受けている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切 にし、納得が得られたかか りつけ医と事業所の関係を築 きながら、適切な医療を受け られるように支援している	契約時に医療や受診(歯科を 含む)等について説明し、利 用者・家族が主治医を選択し ている。原則的にかかりつけ 医の受診は家族が対応し、協 力医による月2回の往診と24 時間の連絡体制をとっている。 眼科や皮膚科等についても、 基本的には家族は付き添いと しているが、状況に応じて柔 軟に支援している。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針 の共有 重度化した場合や終末期の あり方について、できるだけ 早い段階から本人や家族等 ならびにかかりつけ医等と 繰り返し話し合い、全員で 方針を共有している	契約時に重度化についての 事業所の方針と、医療との 連携体制について説明し、 利用者の家族から、同意を 得ている。利用者の心身の 状況に応じて、主治医を含 めた関係者で話し合いの機 会を確保し、その都度の利 用者・家族の気持ちの確認 と、情報・方針を共有しな がらの支援体制がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	ゆっくりとした声掛けや会話、丁寧に謝意を表すな ど、年長者として利用者一人ひとりを尊重したうえで の自然な対応がみられた。介護記録等の取扱いと管 理状況は、適切であった。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	「のんびり、ゆったり、皆で一緒に一日、一日」の理念 の通り、利用者の気持ちやペースを尊重した対応が 見受けられた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	職員は利用者の希望や実際の摂取の様子を考慮 し、「高齢者」という既成概念にとらわれずにメニュー を研究している。調査当日のメニューはフレンチト ーストとシチューで、利用者からは「とても美味しい」と大 好評であった。食事の準備等も利用者の能力や、そ の時々々の気持ちを尊重しながら、無理なく協力して 行っている。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミン グに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	入浴日等は設けておらず、利用者の希望を優先して いる。実際は週2～3回位の利用が多いが、毎日の入 浴も可能である。あまり入浴を好まれない方には、タ イミングを見計らった入浴への声掛けや、足浴、清 拭等を行い、定期的な清潔保持の機会を確保してい る。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	利用者一人ひとりの思いや出来ることなどを把握 し、介護計画に反映させている。洗濯物たたみや、 オシボリ巻きなど、利用者間でも自然に役割が出来 あがってはいるが、職員は、その時々の方の気持 ちも尊重し、無理強いすることなく支援している。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	花見や行楽など、定期的な計画立てでの外出のほか に、日常的な散歩や買い物かねたドライブ等、利用 者の希望に沿って個別に支援している。また、ホーム 建物自体がバリアフリーとなっていて、車椅子利用の 場合、自走での外出や散歩が可能な造りになってい る。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中は常に開錠されており、自由に出入りができ、 職員は利用者の様子をきめ細かく観察・見守ってお り、さりげなく声をかけたり一緒について行く等、利用 者の自由な暮らしを支える対応と安全面への配慮が ある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	消防署の指導のもと、年2回の避難訓練の実施があ る。訓練は非常時の移動方法や連絡方法について学 ぶなど実践的である。また、避難訓練には法人職員 や民生委員の参加があるなど、隣接する母体病院や 地域の協力が得られる体制である。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	献立については、まず職員が立てた献立を看護師 である管理者がチェックし、栄養バランス等のアドバ イス等を行っている。利用者ごとの食事摂取量の把 握を行い、必要に応じて水分摂取量と体重の増減を チェックし、検査データをもとに、協力医への相談やア ドバイスを受けるなどの取組みがある。また、法人内 には栄養士も在職している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	木目調のリビングは天井が高く、開放的で明るい空間 となっている。掃きだしもあり、外の景色が見渡せ、自然 換気で心地良い。ゆっくり過ごせるようにソファも設 置され和室が隣接する等の工夫もされている。また、 程よい装飾や、季節の草花を飾るなど、居心地よくす ごせるように工夫している。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	寝具や椅子等、使い慣れた物が持ち込まれており、 家族の写真等を飾る等、安心して居心地よく過ごすた めの居室作りに配慮している。各居室にクローゼットと洗 面台が設置され、希望に沿ってベッド等のリースも可 能である。床はフローリングであるが、衝撃吸収のマット を敷く等、安全面への配慮もある。		

 は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号